

ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース

県中農林ニュース

第 11 号 (平成 31 年 2 月発行)

編集・発行 福島県県中農林事務所



写真：いちご、菌床しいたけ、寒締めほうれん草、ニラ

○特集

- ・ 県中地方の農業生産基盤の整備と多面的機能の発揮について
- ・ 県中地方の森林整備と多面的機能の発揮について

○農林業関係の動き

- ・ 小山忠義・忍御夫妻の第 59 回福島県農業賞受賞を祝う祝賀会が行われました！
- ・ 渡邊広・竜子御夫妻の第 59 回福島県農業賞受賞を祝う祝賀会が行われました！
- ・ ふくしまからチャレンジ！ 就農フェアを開催しました！
- ・ ピーマン栽培 30 周年記念式典が開催されました！
- ・ 平成 30 年度第 2 回県中地方・地域産業 6 次化ネットワーク交流会、第 1 回県中地方・地域特産品創出クラスター分科会を開催しました！
- ・ 平成 30 年度第 2 回県中地方・特産品創出クラスター分科会（6 次化商品成果品発表）を開催しました！
- ・ 「おいしい ふくしまいただきます！」キャンペーン県中地方特産品プレゼント及び「ふくなかすいっつ」消費拡大キャンペーンふくなかすいっつプレゼントキャンペーンの第 2 期抽選会を開催しました！

- ・ 平成 30 年度ふくしまから はじめよう。攻めの農業革新技术推進セミナー～「シャインマスカット」について考える～を開催しました！
- ・ 「畑の学校」で育てた野菜の収穫と豚汁づくりを行いました！
- ・ 田村森林組合が合併 30 周年を迎えました！
- ・ 平成 31 年「農始式」が開催されました！
- ・ 田村市で木質バイオマス発電所の安全祈願祭が行われました！

○頑張る農業者

有限会社 武田ファーム（郡山市）

○郡山の米、田村のピーマン、岩瀬のきゅうり 今年的一年

- ・ 平成 30 年産お米について
- ・ 平成 30 年産田村地域のピーマン生産について
- ・ 平成 30 年度の須賀川農業普及所におけるきゅうり振興について

○6 次化商品の紹介

- ・ 安積野菓子処 平田屋

○各部・各普及所の紹介

- ・ 総務部
- ・ 森林林業部
- ・ 田村農業普及所
- ・ 須賀川農業普及所

特集

① 農業・農村の多面的機能について

～農業・農村の多面的機能とは？～

「国土の保全、水源のかん養、自然の環境保全、良好な景観の形成、文化の伝承及び、農村で農業生産活動が行われることにより生じる、食料その他の農産物の供給」などのことで、その機能の効果は、その地域に暮らす県民の皆さんも享受しています。

例えば

農地では…農業用水や雨水の一部が水田や畑に浸透して流域の地下水となり、下流域では、かん養された良質な地下水が生活用水等に利用されています。

水田では…雨水を一時的に貯蔵することができ、徐々に下流に流すことにより、洪水の発生を防止・軽減することができます。また、水田に張られた水により雨や風から土壌を守る役割もしています。

農地はこのほかにも、水田や畑の植物や昆虫、動物等の豊かな生態系の保護にも大きな役割を果たしています。

② 森林の多面的機能について

～森林の多面的機能とは？～

「木材などの物質生産並びに、生物多様性の保全、土砂災害の防止、水源かん養、保健休養の場の提供などの多面にわたる機能」のことで、私たちの生活に大きく貢献しています。

例えば

生物多様性保全

森林は、樹木や草、コケなどの植物や、菌類、土壌微生物、昆虫、鳥、爬虫類、哺乳類など様々な生き物の生息・育成の場となっており、このような生態系や生物種、遺伝子を保全する機能を持っています。

土砂災害の防止

樹木や草本が地面を覆い、その根が土壌を抑えることにより雨による土壌の流出や、土砂崩れなどを防止しています。

県中地方の農業生産基盤の整備と多面的機能の発揮について 【農村整備部】

○農村整備部では、本年度農業農村整備事業により県営事業 24 地区約 33 億円、団体営事業 6 地区約 1 億 4 千万円の事業、計 30 地区約 34 億円の事業を実施しています。

特に、ほ場整備事業については農業生産経費の削減による収益力の増加と将来の農業生産を担う効率的で安定した経営体（担い手）を育成のため 10 地区約 440ha の事業を実施しています。

担い手が地域に根ざした経営が出来るよう関係者一同、早期事業完了を目指しています。

【主な事業】

単位：千円、%

事業名	総事業費	平成 30 年度予算	進捗率
復興基盤整備事業 (水利施設整備事業)	1,210,000	280,000	71.2
復興基盤整備事業 (農地整備事業)	7,993,000	1,532,000	57.5
復興基盤整備事業 (農地防災事業)	3,582,433	700,000	79.8
復興基盤整備事業 (中山間地域総合整備事業)	1,772,600	223,000	73.7
復興基盤総合整備事業 (ほ場整備事業)	3,342,000	339,000	11.6



【整備されたほ場堀之内地区】



【大型コンバインによる刈取状況：堀之内地区】

○農業・農村は良好な環境を形成するための多面的機能を有しており、その利益は広く国民全体に享受されています。

しかしながら、近年は過疎・高齢化などのため地域の共同活動が低調となり、農用地、水路、農道等の地域資源の保全管理に対する負担増が問題となっています。

このため、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動を支援するため多面的機能支払交付金制度が平成 27 年度からスタートしました。

平成 30 年度現在、管内 12 市町村において 383 の活動組織が共同活動に取り組んでいます。対象となる農用地面積は 17,500ha、交付金額は 784 百万円に及びます。

県中農林事務所農地計画課では各市町村の担当部局と協力しながら、それぞれの活動組織がはつらつと活発に活動出来るよう引き続き支援していきます。



【「ふくしまむらの輝き 2017」写真コンテスト入選作品 「輝くむらの春」】

撮影者：郡山市 佐藤源策さん 撮影地：三春町沼澤地内



県中地方の森林整備と多面的機能の発揮について

【森林林業部】

県中農林事務所管内の私有林面積は95千haで、人工林率（森林面積に占める人工林面積の割合）は47%と県平均の35%を大きく上回っていますが、これらの人工林のうち約4割が間伐対象の林齢となっています。

森林は、水源かん養、地球温暖化や土砂災害の防止などの多面的機能を持っており、それらを高度に発揮させるためには間伐等の森林整備が不可欠ですが、原発事故の影響により停滞しているため、県では以下のとおり各種事業により適正な森林整備を推進しています。

今後も、森林の持つ多面的機能の発揮に向けて各種支援に取り組んで参りますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

区 分		平成 30 年度計画
森林整備	一般造林事業	約 570ha
	森林環境基金森林整備事業	約 160ha
	ふくしま森林再生事業	約 430ha（作業道：約 81,000m）
路網整備	森林管理道整備事業	1 路線、延長：約 400m
	林業専用道整備事業	7 路線、延長：約 3,700m
	森林整備促進路網整備事業	5 路線、延長：約 4,500m



【森林整備施工前】



【森林整備施工後】

農林業関係の動き

小山忠義・忍御夫妻の第59回福島県農業賞受賞を祝う祝賀会が行われました！ 【農業振興普及部】

12月1日（土）、郡山市湖南町で水稻・野菜の複合経営を営む小山忠義・忍御夫妻の第59回福島県農業賞受賞を祝う祝賀会が、郡山ビューホテルアネックス（郡山市）において開催されました。

祝賀会では、根本匠厚生労働大臣、品川萬里郡山市長、桃井栄一県中農林事務所長らが祝辞を述べ、小山さん御夫妻の栄誉をたたえました。

会場には、渡邊守久さんを代表とした発起人の他、地域の生産者・関係機関など多数の関係者が出席し、小山さん御夫妻の受賞を盛大にお祝いいたしました。

お祝いを受けた小山さん御夫妻は、「受賞を機に、より一層農業を通じた地域貢献に励みたい」との決意を述べられました。



【祝賀会の様子】

渡邊広・竜子御夫妻の第59回福島県農業賞受賞を祝う祝賀会が行われました！ 【森林林業部、田村農業普及所】

12月8日（土）、田村市常葉町で菌床しいたけの栽培を営む渡邊広・竜子御夫妻の第59回福島県農業賞受賞（農業経営改善部門）を祝う祝賀会が迎賓館辰巳屋（田村市）において開催されました。

祝賀会は、田村市常葉町認定農業者会が発起人となり、田村市常葉町の農業者やきのこ生産者、関係機関・団体職員など多数の関係者が出席し、渡邊御夫妻の受賞を盛大にお祝いしました。

渡邊氏は、平成15年から山間高冷地でも通年で生産・販売ができ、効率よく収量の安定が期待できる菌床しいたけ栽培を始められました。

新技術の導入やコスト低減への工夫、収量向上技術の考案などの取組、さらに田村地域でもいち早くJGAP認証を取得し、安全安心の生産を実践されています。

また、就農のための研修生や農業体験の受け入れを積極的に行い、椎茸の生産性向上や農業の魅力伝達に取り組むとともに、イベント等で地場製品のPR活動を行うなど、多大な地域貢献もされています。

「安心安全への取組みにより得られた信頼をさらに深め『最強の福島』を目指す」と抱負を語られました。



【挨拶をする渡邊御夫妻】

ふくしまからチャレンジ！ 就農フェアを開催しました！ 【田村農業普及所】

12月2日（日）、郡山市の県農業総合センターにおいて、県内外の新規就農希望者の掘り起こしを目的とした「ふくしまからチャレンジ！ 就農フェア」を開催しました。

フェアには、県北、県中、双葉、いわき地域の市町村や農業団体、農業法人など20ブースが出展し、47組60名の来場者と就農に向けた相談を行いました。同会場では就農セミナーも開催し、先輩若手農業者2名から就農体験談などをお話いただきました。聴講者は熱心に聞き入り、就農に向けた具体的な質問も出されていました。

今後も新規就農者の確保のため、来場者をはじめとした新規就農希望者の相談・支援を関係機関・団体と連携して行ってまいります。



【就農相談の様子】



【就農セミナーの様子】

ピーマン栽培 30 周年記念式典が開催されました！ 【田村農業普及所】

田村地域ではピーマン栽培が始まり 30 年を迎え、生産者や歴代部会長、関係機関・団体等計 117 名参集のもと、12月5日（水）～6日（木）に、栃木県湯西川温泉にて、ピーマン導入 30 周年記念式典が開催されました。普及所では、これまでに、JA 営農指導員と一体となり、作付者の掘り起こしや栽培技術支援を行ってきました。

補助事業により、選別機、集出荷施設、予冷庫の拡充整備を進め、ピーマン生産基盤の構築を図ってきました。

これらの普及活動及び関係機関・団体の努力が、現在、県内1の生産量を誇る「たむらのピーマン」を作り上げ、栽培開始 30 周年を迎えることができました。

これからは、さらなる高齢化、担い手不足が想定されます。普及所としては、ソーラー自動灌水システム等の省力化技術を継続して推進するとともに、新規就農相談会の開催、新規就農希望者や定年帰農者等に対する経営・栽培に関する提案や助言を行い、担い手の確保・育成を支援してまいります。



【写真：30周年記念式典の様子】

平成30年度第2回県中地方・地域産業6次化ネットワーク交流会、及び第1回県中地方・地域特産品創出クラスター分科会を開催しました！ 【企画部】

12月7日（金）、郡山合同庁舎第1会議室において、地域産業6次化ネットワーク会員の知識・商品力の向上と事業者間の交流及びマッチングを図るため、第2回ネットワーク交流会を開催しました。

併せて、地域特産品創出クラスター分科会を同時開催し、開発を進めている県中地方の農林水産物を使用した6次化商品の試作品について、紹介や試食・グループワークを実施しました。

当日は、28名の参加者があり、1部では、講師のトラックスアンドストアーズ株式会社西尾望代表取締役より、「売るための『デザイン&言葉』を考える実践講座」と題してご講演をいただきました。続く2部では、6次化ネットワーク会員より提供された3試作品について説明を受け、グループごとにその商品名やフレーズを考案して発表し、講師からアドバイスや講評をいただきました。活発な議論がなされ、商品の成果品発表に向け大変参考となりました。

※県中地方の1次（生産）・2次（加工）・3次（サービス）の各事業者が、それぞれが持つ強みを生かして連携し、商品に新たな付加価値を加え、連携者の所得向上と地域経済の活性化を目指す組織（平成31年1月現在会員数：366名）



【交流会の様子】



【交流会の様子】

平成30年度第2回県中地方・地域特産品創出クラスター分科会（6次化商品成果発表）を開催しました！ 【企画部】

1月30日（水）、県郡山合同庁舎において、今年度2回目となる県中地方・地域特産品創出クラスター分科会を開催しました。

県中地方・地域産業6次化ネットワーク会員^{※1}の3事業が今年度、開発を進めてきた5商品を発表しました。

3事業者より、開発コンセプトや商品の特徴、開発にあたって苦労した点などを説明いただき、出席者による試食後、6次化イノベーターから講評を受けました。

分科会後半では、「地域の豊かな資源を活かした6次産業化の事例」と「展示会・商談会での魅力的なブース演出」と題し、2人のイノベーターより、それぞれ講演をいただきました。参加者にとって大いに役立つ内容でした。

※1 県中地方の1次（生産）・2次（加工）・3次（サービス）の各事業者が、それぞれが持つ強みを生かして連携し、商品に新たな付加価値を加え、連携者の所得向上と地域経済の活性化を目指す組織（平成31年1月現在会員数：366名）



【平成30年度成果品】



【クラスター分科会の様子】

「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン県中地方
特産品プレゼント、及び「ふくなかす一つ」消費拡大キャンペ
ーンふくなかす一つプレゼントキャンペーンの第2期抽選会
を開催しました！ 【企画部】

今年度の「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン県中地方特産品プレゼントは、消費者の皆様へ、県産農林水産物の魅力をPRし、県産農林水産物の消費拡大と地産地消を促進するため、県中地方の「がんばろう ふくしま！」応援店に登録されている26常設直売所における購買者を対象としたキャンペーンです。

また、「ふくなかす一つ」消費拡大キャンペーンは、平成24年度から県産農林水産物を使用して開発を進めてきた「ふくなかす一つ」※の商品数が30品目を超えたことから、一般消費者への「ふくなかす一つ」のさらなる知名度向上と県産農産物を使用したお菓子の消費拡大を推進するため、「ふくなかす一つ」を製造・販売している25店舗における購買者を対象とした企画です。

両キャンペーンとも、12月12日（水）、郡山合同庁舎第4会議室において抽選会を開催し、桃井栄一県中農林事務所長のくじ引きにより、20名ずつの当選者を決定しました。「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンのプレゼント内容は、郡山市産のりんご、田村市産の乾燥しいたけ、平田村の農産物を使ったお菓子、古殿町の味噌など「県中地方特産品詰合せ（3,000円相当）」、「ふくなかす一つ」キャンペーンでは、協力店より厳選した16種類のお菓子の詰合せ（3,000円相当）です。



【いただきます！キャンペーン抽選会の様子】



【ふくなかす一つキャンペーン抽選会の様子】

ご応募いただきました直売所・スイーツファンの皆様、ありがとうございました！

当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきました。

※「ふくなかす一つ」とは、県中地方や福島県の農林水産物を使用して県中地方でつくられたお菓子の名称です。

※いただきます！キャンペーン応募総数（Ⅰ・Ⅱ期合計） 応募者数 372名 応募口数 2533口

※ふくなかす一つキャンペーン応募総数（Ⅰ・Ⅱ期合計） 応募者数 162名 応募口数 325口



【プレゼントの内容 左：いただきます！キャンペーン、右：ふくなかす一つキャンペーン】

**平成30年度ふくしまからはじめよう。攻めの農業革新技術推進
セミナー ～「シャインマスカット」について考える～を開催しました！
【農業振興普及部】**

12月19日(水)、JA福島さくら郡山喜久田総合支店会議室において、平成30年度「ふくしまからはじめよう。攻めの農業革新技術推進セミナー」を開催しました。

郡山市熱海町では、ナシ、ぶどう、水稻の出荷・調製作業の労働力の競合を軽減させ、販売物のない冬季に販売することで販売単価を向上させることを目的とし、ふくしまからはじめよう。攻めの農業技術革新事業でぶどう「シャインマスカット」の有色の果実袋による収穫期延長技術と冷蔵貯蔵技術を組み合わせ合わせた長期出荷技術の実証を行っています。

当日は、管内のぶどう生産者他33名が参加し、農業振興普及部から、「ふくしまからはじめよう。攻めの農業技術革新事業実証ほ」の実績について説明しました。その後、JAふくしま未来保原ぶどう部会部会長、副部会長、JA福島さくら郡山地区ぶどう部会部会長をパネラーとし、「シャインマスカット」の栽培技術等についてパネルディスカッションを行いました。

実証ほ園主からは、実証技術により労働力の一極集中が解消され、効率的に作業が行うことができたことにより、労働時間が3分の2になり、さらに、冬季に高単価で販売することができたことで、所得の向上が図られたと説明がありました。また、パネルディスカッションでは意見交換が行われました。



【セミナーの様子】

**「畑の学校」で育てた野菜の収穫と豚汁づくりを行いました！
【農村整備部】**

今年度は、田村市の福島県立たむら支援学校において「畑の学校」に取り組んでいます。

秋に、学校近くの畑で大根・白菜・人参の種まきを行い、成長した野菜を、12月11日(火)に収穫作業、13日(木)には、収穫した野菜を使用した豚汁作りを行いました。豚汁は給食と一緒に食べましたが、児童・生徒達は豚汁をおかわりしながら美味しそうに食べていました。

児童・生徒達が、「畑の学校」における種まきから収穫に至るまでの体験活動は、食の大切さや農作業の大変さなどを学ぶことができたとても良い機会となったことでしょう。



【収穫した野菜で作った豚汁食べている様子】



【大根の収穫の様子】

田村森林組合が合併 30 周年を迎えました！ 【森林林業部】

田村森林組合合併 30 周年記念式典が、1 月 7 日（火）、国会議員、県、市、林業関係団体、森林組合関係者など約 130 名の出席の下、田村市船引町で盛大に開催されました。

昭和 64 年 1 月に、船引町森林組合、常葉町森林組合が合併し、船引町、常葉町のほかに三春町を加えたエリアを管轄する田村森林組合が誕生し、この度、30 周年を迎えました。

当組合は、組合員数 4,306 名、組合員森林所有面積 11,327 h a で、誕生以来、地域森林資源の維持管理及び森林資源の活用による組合員の経済的・社会的地位の向上に取り組んできました。平成 9 年には、田村材のブランド化と産地形成を図るため、「ウッドミル田村」田村材加工センターの運用を開始、平成 29 年には、持続可能な森林経営を示す第三者認証（SGEC 森林認証）を取得、また、製材 J A S 工場認定を取得するなど、地域の森林づくりと地域材の活用に大きく貢献しています。

式典において矢吹盛一代表理事組合長は、「平成から次の時代へ「人も森も活かして、地域力」を掲げ、森林の潜在力を最大限に活用できる地域森林の担い手として活動していく。」と決意を表明しました。

県中農林事務所からは桃井栄一県中農林事務所長が出席者し、「今後とも、本県森林・林業の復興・再生をけん引していただきたい。」と祝辞を述べました。



【田村森林組合 合併 30 周年記念式典集合写真】

平成 31 年「農始式」が開催されました！

【農業振興普及部】

1月11日(金)に郡山市田村町金沢において、郡山農業青年会議所、郡山ブランド野菜協議会、NPO 法人郡山農学校の3団体の主催で、農始式が開催されました。

式には、各団体の会員が出席し、来賓として県、郡山市、県議会、市議会、郡山商工会議所などが招かれました。

式では、仏事により出席者全員で農業復興・五穀豊穰を祈願した後に主催者の挨拶と県中農林事務所桃井所長ら出席した来賓からの祝辞がありました。また、新年を祝う詩吟が披露されるなど、和やかな雰囲気の中で式が行われました。

平成31年の郡山市農業が安全・豊作であることを祈念いたします。



【平成31年「農始式」の様子（郡山市田村町金沢）】

田村市で木質バイオマス発電所の安全祈願祭が行われました！

【森林林業部】

1月15日(火)田村市大越町の産業団地において、田村木質バイオマス発電所の安全祈願祭が執り行われ、関係者が鍬入れや玉串奉奠などを行い、工事の安全を祈願しました。

施工主である発電事業者は、再生可能エネルギー事業などを手掛ける(株)タケエイ（東京都）が田村市に設立した(株)田村バイオマスエナジーで、発電所の最大出力は7,100キロワットと一般家庭1万5千世帯の年間消費電力に相当し、燃料となる木質チップは、地域の木材業者やチップ生産者等を中心に調達する計画です。

田村市では、地域資源を活用した再生可能エネルギーの推進と地場産業の振興による雇用創出を目指し、発電事業者と企業立地協定を締結してプロジェクトを進めてきました。

本格稼働は2020年の春を予定しており、今後、未利用間伐材の新たな需要が生まれることで、地域の林業・木材産業が活性化し、森林の再生が加速化していくものと期待されています。



【鍬入れを行う(株)田村バイオマスエナジーの小檜山代表取締役社長】

頑張る農業者等を紹介

～有限会社武田ファーム 武田晃一氏～

郡山市阿久津町の有限会社武田ファーム代表取締役である武田晃一さんは、先代から黒毛和種肥育を引き継ぎ、原子力災害にも負けず、御家族で一致団結して地域でも有数の飼養頭数まで規模を拡大しています。また、「采女牛を育てる会」会長として、郡山市の黒毛和種最高級ブランド「うねめ牛」を展開するなど、地域農業の振興に尽力されています。

常にきめ細かく牛を観察し、1頭1頭愛情を込めて牛を育てることから、武田さんが育てた牛のほとんどが最高級の牛肉との評価を得ています。その技術は折紙つきで、肥育農家はその腕を競う全国レベルの枝肉共励会において、過去3度最優秀賞を受賞されています。

一方で、県立農業短大生の長期研修の受入れなど、地域の畜産を志す若手農業者の育成にも力をいれておられ、平成29年度には指導農業士として認定されました。今後も郡山市農業の指導的立場を担う人物として更なる活躍が期待されています。



【有限会社武田ファーム 武田晃一氏】



郡山の米、田村のピーマン、岩瀬のキュウリ 今年的一年

平成 30 年産お米について

【農業振興普及部】

平成 31 年の米づくりが間もなく始まります。栽培計画の作成に向けて平成 30 年の米作りを振り返ってみます。

育苗期は一部で高温障害や病害の発生はありましたが、好天により概ね良好な育苗となりました。

5 月中旬以降、高温、少雨で経過し、表層剥離やガス湧きが多くのは場で発生すると共に、6 月下旬の低温により分けつが抑制されました。

7 月の好天により穂数は平年並み、一穂着粒数は平年に比べ増加しましたが、少雨等により用水が不足し、一部では著しい干害が発生しました。また、一部は場でイネツトムシや、紋枯れ病による被害が発生しました。

8 月上旬の台風 13 号の風雨により多くのは場で褐変粃が発生しましたが、収量には大きな影響はありませんでした。

8 月下旬から 9 月中旬の日照不足と、9 月上旬の台風 21 号による葉先枯れ等で登熟が緩慢となり、コシヒカリを中心に充実不足による収量と品質の低下が発生しました。

なお、栽培期間を通じていもち病の発生は極めて少ない年でした。

平成 30 年の作柄は、天候による影響が大きく対応は困難でしたが、平成 31 年産に向けて、水持ちの良いほ場では表層剥離やガス湧きを抑制し健全な根を維持するため、必要以上の耕耘や代かきを避け、作土の透水性を確保しましょう。また、水持ちの悪いほ場では、堆肥や緩効性肥料等を活用し、秋落ちしないための施肥管理に努めてください。

病虫害対策では、イネツトムシの防除はツトができてからでは防除効果が劣るので、成虫の飛来状況を確認しながら防除のタイミングを逃がさないことが重要です。

また、紋枯れ病は前年に発生したほ場を中心に発生するので、特に前年発生したほ場では発生状況に応じて防除を実施してください。

平成 31 年が豊作となるよう、ほ場をよく観察して適期作業に努めましょう。



【刈取りの様子】

平成 30 年産田村地域のピーマン生産について

【田村農業普及所】

田村地域のピーマンは、生産量が県内一の産地として、福島県の農業振興を牽引しています。平成 30 年産ピーマン栽培について、盛夏期の高温乾燥の影響により、他産地の出荷量が不安定等の影響もあり、販売単価が例年にない高単価で推移しました。そのような中、生産者の生産意欲の向上や生産者の栽培技術の進歩などにより、過去最高の単収（6,917kg/10a）となり、販売金額 6 億 1,700 万円となりました。

また、1 月 23 日（水）には、大越町の JA 育苗センターで、今年のハウスピーマンの播種が行われました。2 月にはトンネル栽培用、3 月には露地栽培用の播種が行われ、ピーマン栽培が本格化しています。

普及所としても、前年以上のピーマン生産ができるよう、栽培技術指導や省力化技術の推進等の活動を行っていきます。



【ピーマンの指導会の様子】



【ハウス栽培技術指導の様子】

平成 30 年度の須賀川農業普及所におけるきゅうり振興について

【須賀川農業普及所】

須賀川農業普及所では、以下の活動について重点的に取り組みました。

① 施設化について

きゅうり生産振興会議等を通じて J A と推進に向けた検討を行った結果、「産地パワーアップ事業」を活用した「きゅうりん館」の再整備と併せて導入することとし、平成 32 年度の事業実施予定に向けて、現時点で 7 戸から施設化の要望があがっています。

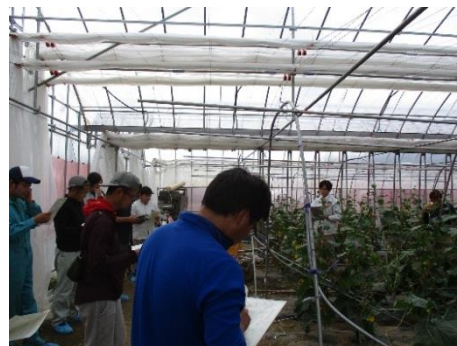
② 技術指導について

高温・乾燥対策や病虫害防除について、指導会や巡回（31 回）、技術情報の発行（17 回）等を適期に行った結果で、異常気象の中でも前年を上回る単収（前年対比 110%）となりました。

③ 若手生産者の育成について

きゅうり若手スキルアップ研修会（9 回開催）による技術指導と参加者同士の技術交流が活発に行われ、参加者の平均単収が管内平均を大きく上回り（管内平均対比 145%）ました。

今後も産地発展のため、地域の課題に攻めの姿勢で挑戦します。



【きゅうり若手スキルアップ研修会の様子】

6 次化商品の紹介



ふくなか すいーつ

前ページで紹介した「平成 30 年度クラスター分科会」において開発された新商品のひとつである、小倉羊羹の中に西田町特産の「南高梅」のジャムを練り込んだ求肥もちを入れて仕上げた『一本の水路』を紹介させていただきます。

商品コンセプト

平成 28 年 4 月に猪苗代湖・安積疏水・安積開拓を結ぶストーリー、未来を拓いた“一本の水路”が、日本遺産に認定されました。その開拓精神を和菓子で表現した商品です。

小倉羊羹の中に「梅肉」、求肥もちを入れて白い部分で『一本の水路』を表現し、主に郡山のお土産として開発しました。



～お買い求めや問合せ先～

○安積野菓子処 平田屋
清水台本店/024-932-3499
荒池公園前店/024-921-4194

各部・各普及所等のご紹介

総務部

総務部では、9名、臨時事務補助員を含めた10名で業務を行っております。主な業務として、所内の経理や庶務、入札関連業務などを行っております。

森林林業部

森林林業部では、部長、副部長をはじめ林業課10名、森林土木課7名の2課19名、派遣職員、臨時事務補助員2名を含めた21名で業務を行っております。

林業課では、林業技術の普及や緑化推進等（経営指導担当）、造林及び林業種苗に関することや森林保護等（森林整備担当）の業務を行っており、森林土木課では治山、地すべり防止事業や保安林の指定、解除、管理等（治山担当）、林道開設事業や林道災害復旧等（林道担当）の業務を行っております。

田村農業普及所

田村農業普及所は、所長、次長をはじめ地域農業推進課5名、経営支援課6名の2課13名、農地中間管理機構地方駐在員、派遣職員、臨時事務補助員3名を含めた18名で業務を行っております。

地域農業推進課では、集落営農等の推進や農業の6次化産業化の支援などを行っており、経営支援課では管理能力に優れた経営体の育成、新たな担い手の確保・育成等を行っております。

田村地域では、夏秋野菜や畜産の振興が図られ、主な農産物としては、水稻、野菜、葉たばこ、畜産、園芸品目の中では、ピーマン、トマト、なす、さやいんげんなどがあります。

須賀川農業普及所

須賀川農業普及所は、所長、次長をはじめ地域農業推進課4名、経営支援課9名の2課13名、農業振興公社駐在員、派遣職員2名、臨時事務補助員2名を含めた18名で業務を行っております。

地域農業推進課では集落営農等の推進、農業の6次化産業化の支援などを行っております。

経営支援課では管理能力に優れた経営体の育成、新たな担い手の確保・育成、等を行っております。

須賀川・岩瀬地域では、主な農産物としては、水稻、きゅうり、ニラ、畜産では、石川牛といったブランド牛などがあります。

お問い合わせ先



- 福島県農中農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒963-8540 福島県郡山市麓山一丁目1番1号
TEL (024) 935-1510 / FAX (024) 935-1314
- ホームページ <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36220a/>
- メールアドレス kikaku.af02@pref.fukushima.lg.jp